

Y I C看護福祉専門学校 令和7年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和7年10月22日（水）14：00～15：15

場所：5階カンファレンスルーム

出席者（学外委員）

- A 山口県 介護福祉士 職能団体会長
- B 高等学校教頭
- C 山口県 看護師 職能団体会長
- D 看護学科実習病院 看護部長
- E 介護福祉学科実習施設 理事長
- F Y I C 看護福祉専門学校 看護学科学生家族
- G Y I C 看護福祉専門学校 介護福祉学科学生家族

出席者（学内教職員）

- H 校長
- I 副校長
- J 副校長
- K Y I C 看護福祉専門学校 事務長
- L 看護学科学科長
- M 介護福祉学科学科長
- N 学科長統括／書記

1 校長挨拶

本年度第1回の学校関係者評価委員会になるが、昨年度からこの委員会の構成メンバーがかなり変わった。新しいメンバー、新しい観点での学校教育あるいは学校運営に関する様々なご意見をいただきたいと思っている。最近の動向として、県内の専門学校（看護学科も介護学科も）において志願者が非常に減ってきている。本校も新しい魅力や付加価値をつけていけないと考えているので、是非ともご意見をいただきたい。

2 委員自己紹介

3 議事

(1) 令和7年度入学生入学動機アンケート調査結果について (資料 I-1, I-2)

I: 資料 I-1, I-2 をもとに説明した。 [..¥第1回¥入学生アンケート¥入学動機アンケート結果・分析.pdf](#)

質疑応答

A: 貴校の Instagram をフォローさせていただいているが、逆にフォローされている方やフォロワーさんは、どういった方がいらっしゃるのか、SNS の効果が今後ますます学校紹介にもつながってくるのではないかと思うがいかがか。

I: 病院の方々、在校生、卒業した学生、家庭を持った家族の方など、どんどん範囲が広がっていると捉えている。フォロワー数も毎月確認をしているが増えている状況なので、これで認知度が上がってくればと思っている。

B: 志望動機ですが、非常に理想的な答えが多いが、いかがか。

I: アンケート実施が5月の時点なので意欲も高く、こんなに難しいはずはなかったというようなことは学生の中になかったのかなと思う。本当に優秀だなんていう印象は5月時点のことである。

B: 高校の立場で受験をさせてもらう側だが、日々進路指導に苦戦している。年々、中学校卒業までに明確な職業観を持つ生徒が少なく、進路選択（文理選択等）を機に初めて将来について考え始めるのが実情である。生徒の情報収集や学校選択の動向に対して、SNS、インスタグラムの影響が想定以上に大きい。本校も教員が毎日、写真や動画を撮りインスタグラムにあげている。生徒たちは、スマホは大体持っており上手に持って、リアルに手軽にどこでも疑似体験ができる。見ることに對する目が肥えてきているので、どうすればわかりやすく、効果的なのかというのを教員としてやっているところである。生徒はインフルエンサー的な要素を求めるのではなく、学校の雰囲気や冷静（ドライ）に見ている側面がある。現状として普通科の高校は県内で人気落ちて停滞傾向にあり、実業系の高校は人気が高いという傾向がある。同校では、1年次に幅広く進路を検討させ、2年次から方向性を絞るコース編成をとることで、キャリア教育を進めている。また、学校選択における決定要因として、親の所得の二極化や片親世代の増加を背景に、学費や奨学金（成績要件含む）といった金銭的なハードルが一定数存在する。さらに、生徒は学校で学

べる専門的内容に加え、学校外での交流の機会も選択肢の一つとして考えているようなところがある。

議事 (1) について、全員一致で承認した。

(2) 令和7年度重点項目取り組み状況 (中間報告) (資料Ⅱ)

J: 資料Ⅱをもとに説明した。..[第1回重点項目進捗状況 2025.pdf](#)

質疑応答

D: 歩留まりとはどういうことか。

J: 来られた中から、学校を選んでくれた方々の割合ということになる。

D: 今後、看護の募集戦略として、さらに工夫していこうと考えていることはあるか。

J: 大学との競合が非常に多いので、看護師ライセンスに加え、新たな特徴を打ち出していないと選んでもらえないと考えている。

I: 昨年から、学生の就職先として美容看護師を選ぶ学生がおり、今年の3年生も2名内定をいただいている。初任給が高く、夜勤がない点に魅力を感じている学生が多い。高校生からもオープンキャンパスで「将来美容外科に進みたいが、ここから進めますか?」という質問が来るようになった。スキンケアや美容に関する特別講義をカリキュラムに取り入れ、オープンキャンパスで「こういう選択科目もできるよ」と体験してもらえるような、健康という視点でのスキンケアや美容ということも考えていかなければいけないと検討に入っているところである。

F: 看護学科は2年生の今から就職先を決めないといけなくて、県内か県外か、家から出るか通学するかで、本人がすごく悩んでいる状況である。先生から「あなたはここにしたら?」と決めてもらえたら一番いいのに、と話していた。病院見学も行かせてもらったが、2箇所しか見られなかったのも、他のところも見ておけばよかったのかと、今とても悩んでいる状態である。

I: 2年生になって病院の選び方などの指導を行う。実際にはやはり、インターンシップに行ってもらって、自分の目で確認する、説明を受けるっていうところで納得していただきたいと思う。2年生の5月、6月、7月あたりで、将来なりたい看護師像や働きたい場所をほぼ決めている学生は少ない。私たちも県内の看護事情とか施設の状況は説明して

差し上げられるが、県外のこの病院どうですかと聞かれても、情報がなくパンフレット上のものでしかないので、実際に行っていただくといい。まだ冬とか、春とかあるので、少し自分の条件を絞り込んでいただくと、一緒に探して差し上げられる。キャリアサポートに、何度も相談をしていただけたらと思う。

G：娘は、学校を決める時に、やはりオープンキャンパスでの先生方との対面が一番の決め手になったみたいである。娘は今とても楽しく通っており、家でも真面目に課題に取り組んでいる様子が見られるので良かったと思う。

J：入学前の段階の悩んでいる時から関わっているので、そういった背景を知った上で関わっていきたいと考えている。

M：高校ガイダンスやオープンキャンパス等で関わった学生が、入学してきてからも協調性を持って真面目に学校生活に取り組んでいる。何か手伝って欲しいと頼んだ時に二つ返事で手伝ってくれるので、感謝している。

A：学生募集について、オープンキャンパスの開催はされていると思うが、最後に背中を押すきっかけになるのは、本人なのか、保護者さんなのか、学校の先生なのかが気になった。また、保護者向けのオープンキャンパスなども企画されているか。

J：介護福祉学科に関しては、福祉科を持っている高校が減っているため、福祉科対象説明会を毎年実施している。保護者の方にも、高校の先生にも参加していただき、将来本当にこの仕事でやっていけるのか、資格が取れるのかといった不安を解消できるよう、現場の状況などを発信している。

I：看護は、大学化の影響で、今まで専門学校を目指していた学生が大学に行くようになり、専門学校に来る学生の層は以前よりも変化している。保護者の方も多く一緒に参加されるので、事務の者が保護者だけを集めた奨学金や入試制度の説明を行い、費用面でのマネープランも丁寧に説明している。家族の方は資金面、学生本人は楽しく学べるかどうかニーズとしてあるため、両方に寄り添える形で説明している。

F：娘も入学の時、周南大学の看護科の開設時期と重なり、高校の先生には大学を勧められた。しかし、オープンキャンパスに参加し、「この先生のもとで勉強したい」という気持ちが強くなり、YICの専門学校を選んだ。校長先生の授業すごい、授業が楽しいと言っている。やはり、大学と専門学校では、どうしても専門学校の方が下の方に見られてしまうというのがあるが、私としては、やっぱり子供がここに来たいと決めてYICにしてよかったなと思う。

I：娘さんのように養成校で学びたい、ここがいいと言ってくれる学生さんがいる。私たちは、国家試験合格というゴールに向けて、学生一人ひとりの背景や学習の仕方に寄り添った教育を行っており、これは専門学校でしかできない強みだと思っている。

議事（2）について、全員一致で承認した。

4 その他

C：今、日本看護協会では看護職の生涯学習ガイドラインが出ていて、どんな看護師になりたいか未来を描きながら、それに沿って自分のキャリアを作っていくという考え方に大きく変わってきている。学生が「看護が好き」という思いを大事にしながら、そのキャリアが叶うようにサポートしていきたいと考えている。

【情報交換】

E：今日午前中に、県の自民党県議団の方に要望書を提出してきた。医療福祉の人材不足、あるいは報酬が低いという大変な問題がある。介護職は他産業の平均賃金より月額8万3千円安く、障害分野も6万8千円安く、大変厳しい状況である。養成校に対する支援を何としてもお願いしたいと伝えてきた。後に続く人たちがいないと、福祉業界には未来がない。

H：介護も、医療もそうだが、このまま行くと将来ちょっと山口県は危ないなと感じるところである。人手不足は厳しい状況である。私たちが努力はするが、できることは限られている。職能団体など皆様とさまざまなイベントで協力し、危機的な状態を皆さんに知ってもらうことから、地道にやっていかないといけないかと思っている。

E：唯一希望があるのは行政も非常に協力的になってきたことである。現場の声をよく聞いていただき、制度に反映してくださるなど、過去になかった。今、非常に良い意味で協力体制ができている。唯一明るいニュースである。

H：学生に対する奨学金制度もかなり手厚くなっている。

E：最近問題になっているのが紹介業者である。福祉が1人欲しい、看護師が1人欲しいという時に、ハローワークに出すと、紹介業者から電話が入ってくる。紹介料が大体1人あたり100万ぐらいかかる。この100万を紹介業者にあげるのではなく、入ってくる職員さんたちに手厚くやってまいりたいという風に思っている。

L： サポートを担当しているが、今キャリアサポートは2年生の6月ぐらいに指導するが、なかなか学生はピンと来てない。これから12月に領域別実習が始まる。それに合わせ、11月には病院様にお越しいただき実習病院様による就職説明会を行う。学生たちは、実習をしながら、この領域は自分に合っているのか、もっとゆっくり患者さんと接したいのか、救急でバリバリ行きたいのかといった自分の適性を感じながら、3月、4月頃に具体的に病院を決めていく流れになるのではないか。

K： 次回、第2回学校関係者評価委員会は来年2月頃を予定している。